

令和7年6月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	6,144	9,566	4,779	4,787	32	34
2 千 石	4,358	7,035	3,533	3,502	17	12
3 内 山	6,017	8,200	4,403	3,797	36	34
4 大 和	3,734	6,759	3,368	3,391	△ 1	△ 2
5 上 野	7,541	15,313	7,466	7,847	3	9
6 高 見	7,731	13,562	6,445	7,117	△ 6	△ 2
7 春 岡	7,541	11,391	6,056	5,335	41	38
8 田 代	11,460	21,871	10,470	11,401	32	54
9 東 山	10,448	18,905	9,230	9,675	△ 6	△ 25
10 見 付	4,621	8,383	4,226	4,157	3	2
11 星 ケ 丘	3,620	6,807	3,017	3,790	△ 10	△ 20
12 自 由 ケ 丘	3,535	6,976	3,160	3,816	3	△ 7
13 富 士 見 台	6,502	14,812	6,706	8,106	△ 6	△ 23
14 宮 根	3,841	7,850	3,615	4,235	△ 11	△ 28
15 千 代 田 橋	3,794	8,040	3,753	4,287	4	△ 6
千 種 区 計	90,887	165,470	80,227	85,243	131	70
R6. 6. 1	89,687	165,371	80,230	85,141	91	18
対 前 年 比	1200	99	△ 3	102	40	52
名 古 屋 市	1,189,891	2,335,964	1,146,326	1,189,638	1,449	820
愛 知 県 (R7. 5. 1)	3,397,964	7,453,421	3,711,849	3,741,572	10,131	4,801

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	76	129	△ 53	959	836	123

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果を基礎とした本市独自の推計値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

千種区の年齢3区分別人口の概況

今回は千種区の年齢ごとの人口構成割合と、割合から導き出される年齢構成指数について見ていきます。

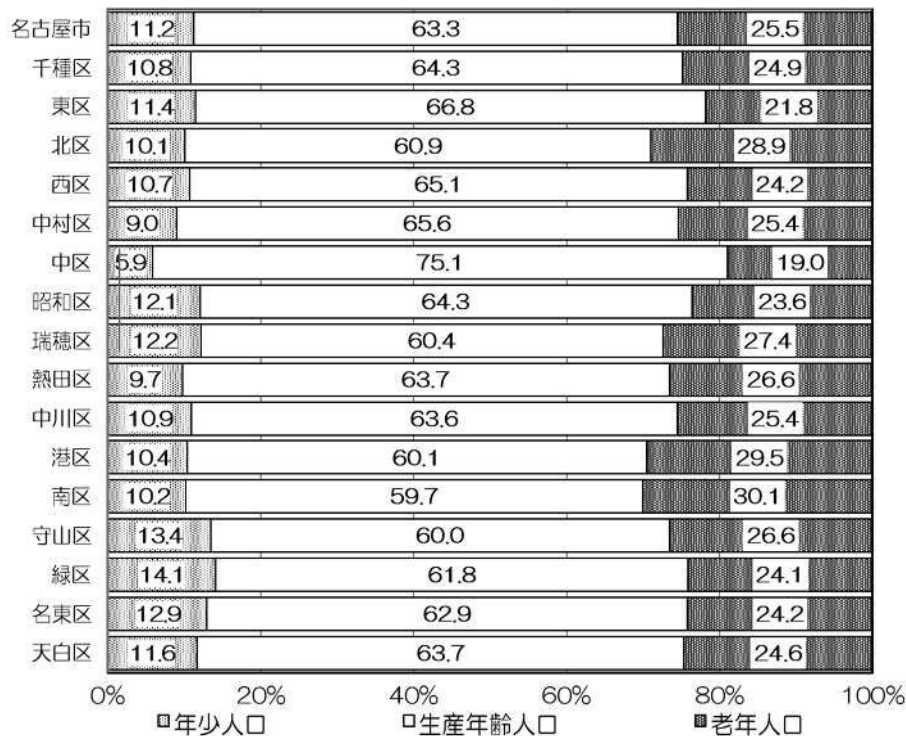


図1：区別年齢3区分別人口比率（令和6年10月1日現在）

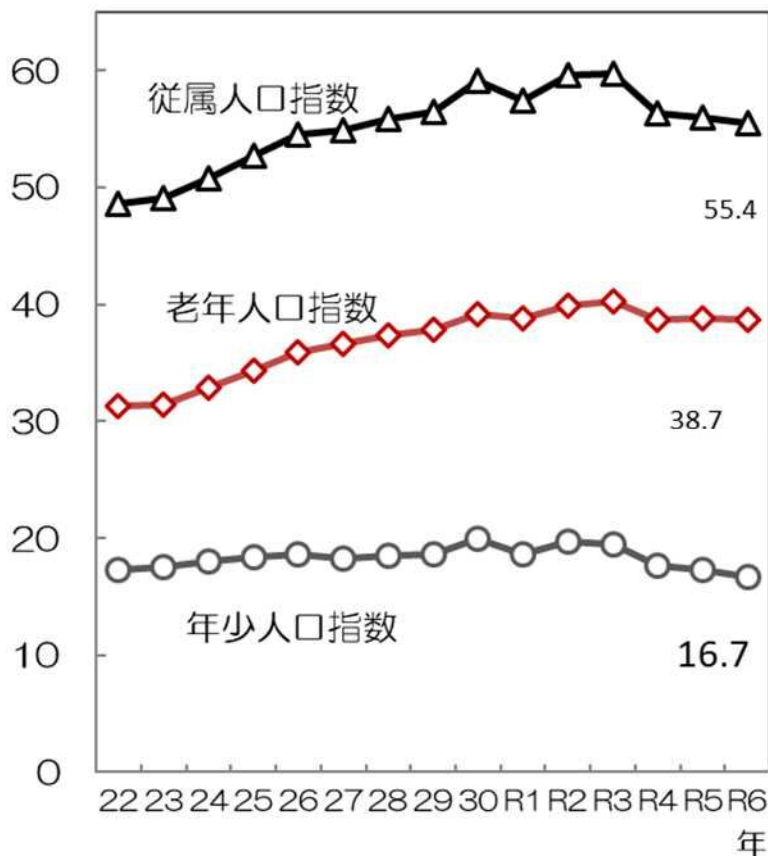
まず、千種区の年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）および老年人口（65歳以上）の比率について見てみます（図1）。

名古屋市全体および各区の令和6年10月1日現在の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口比率は緑区が14.1%と最も高く、千種区は10.8%で16区中9位です。

生産年齢人口比率は中区が75.1%と最も高く、千種区は64.3%で16区中5位です。

老年人口比率は南区が30.1%と最も高く、千種区は24.9%で16区中9位です。

千種区の3区分別人口比率は名古屋市の比率とほぼ同じとなっています。



次に、千種区の年齢構成指数の推移を見てみます（図2）。年少人口指数および老年人口指数は、生産年齢人口100人が年少者または高齢者を何人支えるかを示すものです。また従属人口指数は、年少人口指数と老年人口指数を合計したものです。

千種区の令和6年の年少人口指数は16.7、老年人口指数は38.7で、16区中の高い方からそれぞれ11位と10位となっています。また、千種区の令和6年の従属人口指数は名古屋市全体（58.0）及び令和5年の千種区従属人口指数（56.0）を下回り55.4です。これは16区中高い方から12位（令和5年：11位）となっています。

以上より、老年人口の変動が年少人口よりも大きいため、千種区の従属人口指数は年少人口よりも老年人口の変動に影響を受けている事が分かります。